

## 内湾資源環境調査からみたスズキの資源動態

### ～スズキ仔稚魚の採集状況をふまえて～

スズキは海で産卵ふ化し、成長につれ河口域や淡水域に分布を広げていくことが知られています。本調査で得られたスズキ仔稚魚の採集状況や調査地点の底層 DO の測定結果には、東京湾のスズキが生息環境や成長にあわせて移動している事が反映されていると考えられました。一方、調査結果と資源動向との関連については見出せませんでした。

実施機関

振興企画室

事業名

内湾資源環境調査

(背景・ねらい)

スズキは、東京内湾域の代表的な漁業対象魚種でゲームフィッシュとしての人気も高く、都民の関心が高い水産資源です。今回、島しょセンターによる「湾奥への仔稚魚の来遊状況や海底付近の溶存酸素濃度変動」についての調査結果と「東京湾のスズキの資源動態」との関連について、東京湾におけるスズキの漁獲動向をふまえて検討しました。

(成果の内容・特徴)

#### ① スズキ仔稚魚の採集状況 (図 1～3)

スズキの仔稚魚は例年 1～5 月を中心に採集されており、採集数は、年変動や場所による差異が大きく、令和 2 年以降は少ない状況が続いています。

#### ② 調査地点の底層の DO (溶存酸素量) 変動の特徴 (図 4)

各調査日における測定値から、底層の DO はスズキの仔稚魚が比較的多く採集される時期には高く、採集されない時期には低い値で推移しているものと推察されました。DO 値が高い時期に来遊した仔稚魚は、DO が低くなる時期にかけてより生息に適した場所へと移動しているものと考えられます。

#### ③ 東京湾におけるスズキの漁獲動向

東京湾におけるスズキの漁獲量は減少傾向にあります。一方、千葉県の本船 (小型底曳網船) による調査による操業結果によると CPUE (kg/網数) が増加傾向にあることから、資源は増加傾向にあると考えられます。湾奥における仔稚魚の採集状況は、スズキの資源動向とは異なる結果となりました。

(成果の活用と反映)

今後も内湾資源環境調査を継続し、調査結果をスズキ等都民の関心が高い水産資源にとっての環境評価や、資源動向の分析に活用していきます。

(木本 巧、滝尾 健二)



図1 内湾の調査地点

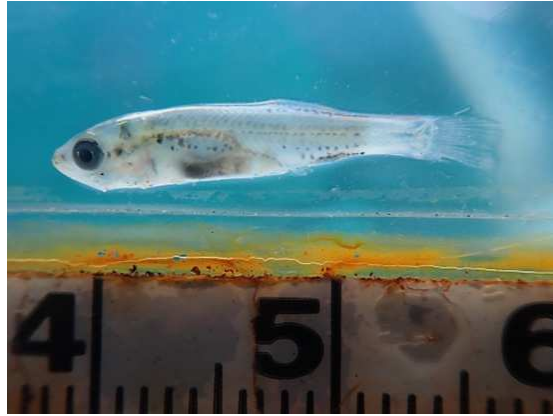


図2 スズキの稚魚

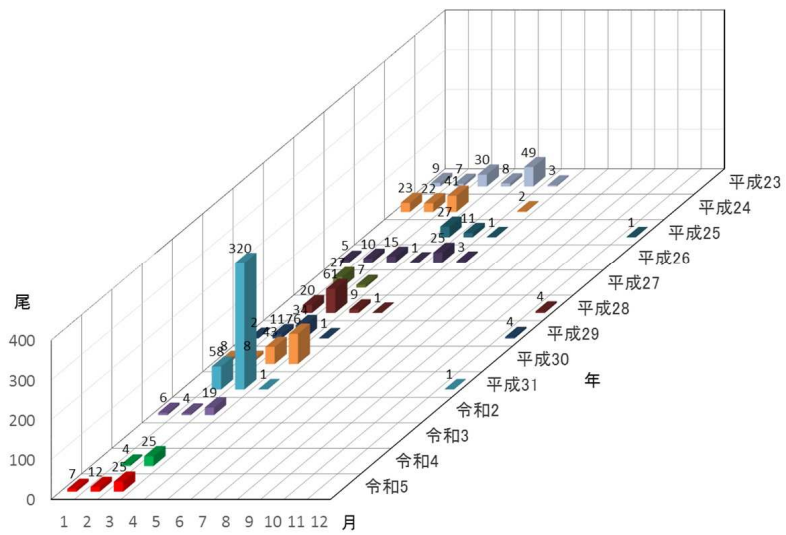


図3 スズキ仔稚魚の月別採集数の推移（平成23年1月～令和5年3月）

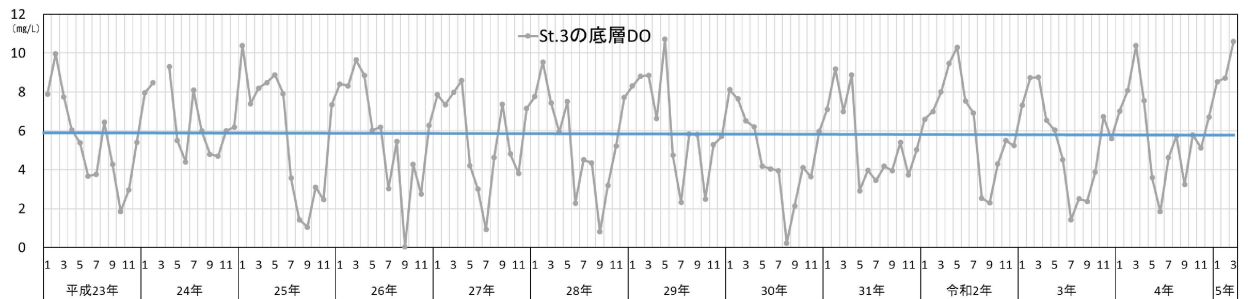


図4 St.3における底層 DO 測定値の月変化（平成23年1月～令和5年3月）